

地上に On the earth

THE BUSINESS PHILOSOPHER 1922年12月号

Arthur Frederick Sheldon 小西宗十訳

毎年12月25日、主の誕生日をたたえて祝うクリスマスに、その御心を讃えて手記を書くのが私の習わしとなりました。

今年のこの特別の日に、この習わしを辞める理由は何もありません。

今よりももっと、何百万の人々が、キリストの名を口にし、その言葉を唱え、実践する日が来つつあります。その時が至れば、この世はもっとよくなります。

小数ですが、そうなればビジネスに宗教色が強くなりすぎる、特に日々の仕事は、と考えている人もいます。そんなことには決してなりません。

宗教は人を神に連れ戻します。そしてそれは今日、私たちにとって何よりも必要なことなのです。

商売や産業は汚いという面があるとすれば、なおさら宗教こそビジネスにとって必要なことなのです。ふさわしい宗教こそ、今日、悪に立ち向かえるのです。

天にましますわれらの神は、御名によってあがめられます。

神の王国は実現します。

地上に実現します。

時が来れば変わります。

キリストは信じたのではないのでしょうか、わざわざ神に頼まずとも、時が来ればことは成就することを。

地上において、ビジネスに必要なのは宗教です。また逆に、宗教にもビジネスはさらに必要です。そしてその両方に、教養がもっと必要です。役に立つ知識は、それが活用されれば力になります。

もっとも役に立つ知識も、活用されなければ、休止した知識に過ぎません。

力を動力に変えて、有益で役に立つ (service) 方向に向ければ、それは活用されたということです。これは宗教の真実です。

キリストの祈りの最初の部分を実現したとすれば、その見出した宗教が働いたということです。

キリスト教だからこそできるのであって、儒教ではそうなりません。

儒教をせんじ詰めれば、偽りを我慢する教えです。

「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」孔子はこういっています。儒教を信じる人は文字通りその教えに従い、蠅も蚤も殺せません。この人生哲学では、汚いもの、無気力が、幅を利かせるのは明白です。

キリストの哲学は、否定的ではなく、肯定的です。受動的な宗教ではなく、積極的な宗教です。信じる人は、偽りを我慢するのではなく、偽りを正すのです。

人は動き、実行します。人は偽りを我慢するのではなく、正しいことをするのです。

人は、嘘や、盗みや、そのほかモーゼが記したさまざまな悪事 (十戒) を、耐え忍ぶことはできますが、耐えることは、私にとってなんの役にも立ちません。

人は、孔子の教えに従うことはできます。しかしそれは結局空しいことです。

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」

私がこの手記で讃えるお方は、こう言われました。そうです。これこそが偉大なプログラムです。これこそが実り豊かなプログラム、主の祈りを実現するものなのです。

ある人が言いました、「それは難しいことだ」と。そうすれば、どれだけ豊かな利益にあずかれるかしかないのに、なぜ難しいとしり込みするのですか？

私は経費のことなど言っていない。利益があるのです。それだけが、大勢の友を得、友情を永続さ

せ、意識を鮮明に保つことのできる唯一の方法なのです。しかも、それは物質的利益をなくしてしまうわけではないのです。それどころは、反対に、利益を高めるのです。

商業や産業に携わる人で、キリスト教を文字通り実践している人は、たいへんなお金持ちになっています。

シンシナティのナッシュ氏は、いろいろやってみましたがみな失敗しました。

彼は黄金律を試みました。そしたら瞬く間に金持ちになったのです。

シカゴのベンジャミン電器カンパニーは、スタート時から黄金律を奉じてきました。今まで一度も破産の危機に陥ることはありませんでした。それどころか、スタートからずっと繁栄してきたのです。私は一度、ベンジャミン社の祝賀会に、講演者として呼ばれたことがあります。工場長や部長を集めた会でした。1922年でした。ベンジャミン氏は開会にあたり祈りを捧げました。

彼の祈りは、私が聞いた中でも最も基本的な祈りでした。

その一節はこうです、「神よ、私たちが顧客と、また従業員との間で、決して利己的になりませんように」

話し終えて、乾杯するとき、私は彼に言いました「とても基本的なお祈りでしたね」と。

「すべてが基本です」ベンジャミン氏は答えました。

「仕事上の宴会で、初めにお祈りするというのは滅多にありませんねえ、特にシカゴでは」と私は言いました。

「私たちはいつもそうしています。役員会の始まる時もそうします。役員室には誰も人の座らない椅子が一つ置いてあります。それは見ることのできない存在のために用意されています。沈黙の同伴者、イエス・キリストはわが社の役員のお一人ですよ」

そして彼はこう続けました。「イエス・キリストがお認めになった、あるいは賛同されたと思えないような解決策や方針は、決して通らないようにしています」

私は、仕事上の立場からして、どうしてそのようなやり方が通るのかと尋ねました。答えはこうです。

「この会社の歴史は、アラディンのランプのお話と同じです。出発点から格別に繁昌してきたのです」会社の創業は、ベンジャミン氏の発明品から始まりました。たった一人で始めて、店の基盤を作ったのです。やがて一人の人が加わりました。店は成長し、店舗を借りました。仕事は順調に伸びました。今やシカゴの郊外に大きな工場を持っています。何百人もの従業員を雇い、商品を世界に送りつけています。

そこにはたった一つの規則があるばかりです。

「地位を保ちたいければ、人にしてもらいたいことは何でも、あなたがたも人にしなさい」

真のクリスチャンは、自分がすべきでないことを人にさせようと望んだりしません。多くの人が、繁栄のためのこの唯一の規則をまるで銃声のように恐れるのか。その理由は、これは天上の宝を蓄えるシステムであって、現実にならざるにすれば、その宝は雲散霧消するのではないかと恐れるからです。

そうではありません。キリスト教は失敗しません。

それは、誰もちゃんと試みなかったからにすぎません。なぜ試みなかったのか、その唯一の根本理由は明示されています。それを身につけさえすれば、人間の悪は矯正され、大いなる困難は取り除かれます。

唯一のもの、二つとないもの。世界で最も偉大なもの。

その唯一のものは愛です。

愛は憎しみよりも数倍よいものです。

誰にとってもよいものです。愛する人にも愛される人にもよいものです。

愛には見返りがあります。愛は生きることです。

憎しみは高くつきます。

憎しみは払いきれない。

なぜ？

人が地上で最も偉大とされているのは、神の愛によってではないのか？

なぜなら、二つの戒律にあるように、すべての法は、部分ではなく、全体であると示しているから。

少なくとも、私たちがその生誕を賛美するお方は、そうおしゃり、ご承知だから。

人がキリスト教を作ったのです。

そして、なぜ愛が偉大かといえば、それが人生の道を照らすから。それは暗い道を照らす。

愛は温め、元気づける、冷たい疑いと恐れを拭い去る。

愛はつかれた魂を強め、元気づける。力を与え、ゴールへと推し進める。

愛は落ち込んだ人の話を聞き、力を貸して立ち上がる道へ導く。

愛は人間の究極の奉仕 (service)、役立つもの。

愛は病気を癒し、健康を保つ。

愛は与えられたところで増殖する。愛する人と愛される人、双方に天への道を照らす。

調和に満ちた天、憎しみと恐れの子産む不和と対極にある調和。

地上に

王国が地上にいたる。

愛がそこにいたる道。

私（愛）はある。

私は常にあった。私は永遠にある。

私はどこにでもいる。私は上に、下に、内に、外に、あらゆるところにある。しかし、私の存在にまだ気付かない者がいる。

私にはストライキやロックアウトを解決する力がある。争いを終わらせる力がある。

私は、地上の救いのない住処を、今ここで、天上の住まいに変えることができる。

私は奉仕の原因であり、かつまた報酬の原因でもある。

私は、憎しみ、ねたみ、おそれを征服する。

私は光であり、温暖であり、それこそが人生なのだ。

そう、私は生そのもの、死を超えるものだ。

私の名は愛。